

会 誌

第 27 号

昭和 62 年 3 月

27

卷 頭 言	小 林 貞 作	
特別寄稿 越中の野生鳥獣	植 木 忠 夫	1
創設 60 周年の歩み	本 多 啓 七	3
10 年間学会誌記載項目一覧		4
創設 60 周年記念大会		10
随 想		
ア. “生命” についての一所見	米 田 豊	12
イ. 人の情けに感激の一年	坂 下 栄 作	13
研 究 発 表		
ア. 富山市で発見されたホクリクサンショウウオ	南 部 久 男	15
イ. 双翅類の訪花植物 I (ハナアブ科)	田 中 忠 次	20
ウ. 鴨川の淡水魚	佐 藤 久 三	39
エ. シルクロードの自然と人	本 多 省 三	47
オ. 富山県におけるキジムシロ群植物 3 種 (キジムシロ, エチゴキジムシロ, エチゴツルキジムシロ) の分布と葉の形態変異	佐 藤 卓	53
カ. 氷見北部神社林のシダ植物	中 川 定 一	72
キ. 世界の果物印象記	本 多 啓 七	75
ク. コンピューターを使った手軽な標本整理	太 田 道 人	76
ケ. タンポポの研究	藺 生 弘 美	84
コ. 富山県内のヒカリゴケ生育地 9 箇所—その概要	山 岡 正 尾	91
サ. 世界のガキ田分布とその生態	本 多 省 三	100
	本 多 啓 七	
本 会 記 事		128
編 集 後 記		129

富山県生物学会

巻 頭 言

会長 小林 貞 作

わが富山県生物学会は、昭和61年をもって創立60周年を迎えた。まことにめでたく、会員の皆さまと共に慶祝に堪えない次第である。本学会の60周年という歴史の重みには、実に大きな意義と誇りとがある。すなわち、この間に行ってきた富山県内外における生物学研究と教育活動の成果は、偉大な業績として評価され、数々の功績や表彰を受けてきたのである。

それにしても小生を除き、歴代会長は、大変ご苦労されたに違いない。すなわち、初代菊池勘左エ門先生、二代進野久五郎先生、三代植木忠夫先生たちである。とくに創設初期の基礎づくりは最も大事なことで、この点、菊池先生の本学会に対すご努力は、実に大変だったものと推察される。これを受け継がれた進野・植木両先生も、本学会に献身的に行動されたからこそ、小生のような者が曲りなりにも会長がつとまっている次第である。いや、これこそ会員の皆さまのご援助・ご協力に、その大半が支えられているからこそ、会長がつとまっているのである。この点、常日頃深く感謝申しあげている。

この60年という長い年月のなかで、本学会が果した業績というのは、いうならば、会員1人1人の研究教育の成果の結果による集積に外ならない。その点、活動的な会員を擁していることに幸を感じている次第である。

いよいよバイオ時代、すなわち、生物科学時代に入った。この60周年を一つの節目として、さらに飛躍的發展をとげようとする時に、会誌第27号の発刊をみたことは、本当に心強い限りである。